

群集墳から火葬墓へ

— 河内の終末期群集墳 —

2010年7月10日(土)
～9月5日(日)

同時開催
大仏のふるさと智識寺
(柏原市市民歴史クラブ企画)

文化財講演会

7月24日(土) 13時～16時

森本 徹氏 (大阪府立近つ飛鳥博物館総括学芸員)

「終末期群集墳の構造と分析」

江浦 洋氏 (財団法人大阪府文化財センター)

「太子町田須谷古墳群とその周辺」

8月7日(土) 13時～16時

渡邊邦雄氏 (大阪市立咲くやこの花高等学校教諭)

「畿内とその周辺地域における古墳の終焉状況」

笠井敏光氏 (大東市立総合文化センター館長)

「飛鳥千塚の終末期群集墳」

定員90名 無料 申し込み不要

平尾山古墳群雁多尾畑第49支群

市民歴史大学

「古墳時代の幕引き」

8月21日(土) 13時30分～15時

猪熊兼勝氏 (京都橘大学名誉教授)

「夾紵棺の被葬者について」

9月4日(土) 13時30分～15時

高橋照彦氏 (大阪大学大学院文学研究科准教授)

「終末期古墳と薄葬令」

定員100名 無料 申し込み不要

柏原市立歴史資料館

開館時間 9時30分～16時30分

休館日 月曜日

入館料 無料

交通 JR大和路線高井田駅から徒歩5分

近鉄大阪線河内国分駅から徒歩15分

〒582-0015 大阪府柏原市高井田1598-1

安福寺所蔵夾紵棺(特別出品)

終末期群集墳とは

一般に古墳時代は前期、中期、後期に三区別されます。そして、後期の次は飛鳥時代になるのですが、飛鳥時代にも数は少なくなり、姿を変えながらも古墳は造られ続けています。この時期（7世紀）を古墳時代終末期といい、終末期に造られた古墳を終末期古墳といいます。

古墳時代後期には、小さい古墳が集まった群集墳が各地に造られます。これらの群集墳の多くが、6世紀の終わりごろに造られなくなりますが、7世紀になって新しく造られはじめる群集墳もみられます。このような群集墳を終末期群集墳といいます。河内には終末期群集墳が数多くみられます。これらの終末期群集墳を研究することによって、古墳が造られなくなっていく時代にどうして古墳を造り続けることができたのか、そしてどのようにして古墳が造られなくなっていくのか、それはなぜなのか、などの問題について考えることができます。

群集墳から火葬墓へ

終末期群集墳のなかには、火葬墓かそうぼが造られている例があります。古墳が造られなくなったあと、新しい埋葬の方法として火葬墓を取り入れた人々もあったようです。どのようにして火葬墓が造られるようになったのでしょうか。火葬墓を造りはじめた人々は、どのような人たちだったのでしょうか。このような古墳の終末と火葬墓の出現についてのさまざまな問題点について、河内の終末期群集墳を例に取り上げながら考えてみたいと思います。

また、柏原市玉手の安福寺あふくじには、古墳時代終末期の貴重な資料として、夾紵棺きょうちよかんが所蔵されています。夾紵棺とは、漆を塗りながら何枚もの布を重ねて作った棺です。この夾紵棺は、絹を45枚も重ねたもので、日本で一番立派な夾紵棺といってもいいでしょう。いったい、だれの棺だったのでしょうか。ぜひ、みなさんにご覧いただきたいと思います。

展示資料

墓尾古墳群はかのお—須恵器、土師器、陶棺片すえき はじき とうかん（東大阪市立郷土博物館所蔵）

千手寺山古墳群せんじゆじやまこぼぐん—石製帯飾、須恵器、土師器（東大阪市立郷土博物館所蔵）

平尾山古墳群ひらおやま雁多尾畑第49支群—金環、和同開珎銀銭・銅銭、須恵器、土師器、鉄釘、銅釘かりんどおばた わどうかいちん（当館所蔵）

田辺古墳群・墳墓群たなべ ふんぼぐん—金環、刀子、和同開珎銅銭、須恵器、土師器、塼、平瓦、鉄釘とうす せん ひらがわら（当館所蔵）

誉田山古墳群こんだやま—土師器ミニチュア土器、塼せん（大阪府教育委員会所蔵）

田須谷古墳群だすだん—和同開珎銅銭、須恵器、土師器、石棺片（財団法人大阪府文化財センター所蔵）

オーコ古墳群—須恵器、土師器、タガネ（羽曳野市教育委員会所蔵）

安福寺所蔵夾紵棺あふくじ きょうちよかん（特別出品）